

認知症本人大使「大分県希望大使」の概要

【趣旨】

- ・国では、令和元年6月に政府において取りまとめられた「認知症施策推進大綱」に基づき「認知症本人大使（希望大使）」を創設し、**認知症の人本人からの発信の機会が増えるよう、地域で暮らす本人とともに普及啓発**に取り組んでいる。
- ・本県でも、令和2年度に認知症本人大使「大分県希望大使」を静岡県、香川県に次ぎ全国で3番目に創設。

【活動内容】

- ・県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力
- ・認知症サポーター養成講座への協力
- ・認知症ピアサポート活動への協力 等

【任期】原則委嘱日から2年間とし、再任を妨げない

【任命時期】令和6年9月（予定）

（参考）

- 国の希望大使の状況
 - ・令和2年1月20日に5名の大使を任命
 - ・令和6年1月21日に大分県希望大使の戸上守氏を含む2名の新たな大使を任命し、現在7名の大使が活動
- 各都道府県の状況（令和6年1月末時点）
 - ・21都府県で計68名の認知症本人大使を任命

現大分県希望大使（4名）（任期：令和4年10月から2年間）



戸上 守(とうえ まもる)さん
豊後大野市在住 63歳

* 国の希望大使を兼任
・前頭側頭型認知症

・38年間、地方公務員の仕事をしていたが56歳くらいからもの忘れの症状と体調不良により退職。現在は、大分市のデイサービスに通っている。また、週に1回デイサービスの運営会社が立ち上げた事業所で運輸関係の仕事にも就いている。

・認知症への社会の理解を深め、認知症があってもなくても同じ社会の一員として地域をともに作っていききたいという気持ちを持っている。



下田 哲也(しもだ てつや)さん
日田市在住 59歳

・アルツハイマー型認知症

・28年間マレーシアで仕事をしていたが、仕事でのミスが増えたことをきっかけに上司から受診を促され、現地の医療機関で認知症の診断を受けた。

・診断後も東南アジアなどで2年間就労を続けたのち、帰国。現在は生まれ育った日田市で母と弟夫婦と暮らしている。

・認知症になって苦しんでいる方や心配している方、何をしたいかわからない家族の方へ、自分の体験を伝えたい。



寺野 清美(てらの きよみ)さん
日田市在住 70歳

・アルツハイマー型認知症

・デイサービス事業所に勤務していた63歳の時に認知症の診断を受ける。現在は、リハビリテーション中であり、レクリエーションに参加したり、散歩をして過ごしている。

・認知症と向き合い、「みんなに助けてもらいながら、みんなと同じように暮らしたい」「自分のできることを続けていきたい」という気持ちを持っている。



佐藤 彰(さとう あきら)さん
大分市在住 74歳

・アルツハイマー型認知症

・数年前からもの忘れが多くなり、生活する中でたびたび落ち込む姿を見て、娘がデイサービスを探し、「もう一度気持ちを切り替えて頑張ったら」と背中を押してくれたことがきっかけで、現在、デイサービスに通いながら、自宅で一人暮らしを続けている。

・デイサービスで仲間と畑仕事に精力的に取り組みながら、「自分が元気になった経験をたくさんの人に話して元気になってほしい」、という気持ちを持って活動している。